

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2473100101
法人名	有限会社 介護センターみつわ
事業所名	グループホームみつわ
所在地 (電話番号)	南牟婁郡御浜町志原1698-50 (電話) 05979-2-4055
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 14 日(木)

【情報提供票より】 (H20年1月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算	11.9人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 作り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(1 月 21 日現在)

利用者人数	14 名	男性	6 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	4 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	須崎医院 井上歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周辺は、田圃やみかん畑が広がるのどかな農村地域である。広い敷地内に建てられた平屋建の建物は、大変明るく、廊下等の共用空間は余裕のある間取りがされている。利用者は、一人ひとりの暮らしのペースが大切にされ、ゆったりとした生活を過ごしている。職員達がより質の高いサービスを目指し、研修、研鑽を重ね熱心に取り組む姿が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>運営推進会議を立ち上げ、地域に密着した事業所づくりへの意欲が感じられる。又、地域の人たちの理解を広めていくための協力も依頼し、運営推進会議を活かした取り組みを始めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員の意見を聞きながら自己評価を行ない、サービス向上のための良い振り返りの機会としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>19年度の会議では、家族の代表も参加し、広報の仕方や地域密着の事業所づくりについて話しあわれ、会議のメンバーには、地域の人達の理解を広めていくための協力もお願いしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へは面会時に近況報告し、年1回、家族を交えた行事を行なっている。事業所内に意見箱を設置し、相談、苦情窓口は管理者としている。運営推進会議へ家族の代表も参加している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園児や地域のフラダンス愛好グループが事業所へ訪問してくれている。地域の人が立ち寄りてもらい易いように、玄関先に椅子を置く等の工夫がされている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人に優しい生活空間、自由な生活空間」を提供することを基本理念とし、更には、地域の人が立ち寄りやすい事業所づくりを目指して取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの機会等において常に職員に理念を伝え、職員全員が共有するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児や地域のフラダンスの愛好グループが訪問してくれている。地域の人が立ち寄りやすいように玄関先に椅子を置く等の工夫をしている。	○	地域の人達に訪問していただくだけでなく、地域の一員として老人会、自治会等の地域の諸活動へ積極的に参加し、地域とのつながりをより一層深められることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員の意見を聞きながら、自己評価を行ない、サービス向上のための良い振り返りの機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年度は1回開催している。家族の代表も参加し、広報の仕方や地域密着の事業所づくりについて話し合った。会議のメンバーには、地域の人達の理解を得ていくための協力をお願いしている。	○	運営推進会議を定期的に行い、幅広い立場からの意見を出してもらい、又事業所運営へも力を貸してもらいながら、推進会議を地域に開かれ、地域に支えられた事業所づくりに積極的に活かしていく取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、役場に訪問して、町担当者と状況報告、意見交換を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等へは面会時に近況報告し、緊急時には電話で報告している。年1回程度家族を交えた行事をしている。	○	事業所の行事や利用者の暮らしぶり等を伝える「ホームだより」の発行を検討中とのことですが、特に、遠隔地の利用者が多いことから家族から喜ばれ又事業所の広報活動にも活用できると思われるので、早い時期での実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。相談、苦情窓口は管理者としている。家族会は作っていないが、運営推進会議へ家族の代表に参加してもらっている。	○	国保連合会や町担当課等の事業所外の相談、苦情窓口については、利用者や家族に口頭で伝えているとのことですが、口頭だけでなく、事業所内の誰もがみられる場所に掲示したり、利用者や家族に配布する文書に記載する等の措置をとられることが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職防止に努めている。職員が変わる場合は、利用者への説明、引継ぎを丁寧に行いダメージを少なくするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会へ随時参加し、参加者は資料をコピーして他の職員に配る等伝達している。職場研修も課題を設定して、随時行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会へ参加している。地域の同業者との交流の機会は、少ないが相互訪問等を随時行なっている。	○	地域の共通課題への取り組みや相互のサービス向上を図るため、地域の同業者との連携、交流をより一層強めるための取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、本人、家族に事業所を見てもらってから、本人が納得の上利用して貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のケアの中で本音が言える関係づくりに努めている。利用者からは、農作業の手順等を教えてもらったりもする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にアセスメントを確実にを行い、日々のケアの中で職員全員が意識してニーズ把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に本人、家族の希望、意向を出してもらい、話し合っている。介護計画は職員全員で検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎定期的に見直しを行なっている。状況に変化があれば随時必要な変更を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時には着替えを届けたり洗濯の支援をしている。可能な限り柔軟な支援を行なうように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医への通院支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応指針を作りたいと思っている。家族の希望もあり、終末期になっても利用できるように努めているが、医師の往診が実現できていない。	○	ターミナルケアについての指針の検討をすすめられ、医師の協力体制を確保しながら、本人、家族の希望にそった対応が出来る取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについて注意をはらい、一人ひとりの尊厳を損なわないケアのため、職員間でも注意し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日程に合わせるのではなく、一人ひとりのその日の様子を見ながら、その人のペースに合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食事の準備を手伝ってもらったり、職員と利用者が一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午前と午後に分けて、本人の希望に応じ入浴支援をしている。入浴時間は、午後7時までとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や能力を活かし、俳句やカラオケ、ゲーム等本人に応じた楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じ、散歩等に付き添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出には職員が注意しあって対応し、夜間以外は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練をしている。夜間を想定しての訓練も行なっている。火災予防のため、オール電化している。近隣に、いざという時、協力してくれる人を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をしている。一人ひとりの食べてはいけない物を把握している。水分摂取は一日5回行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を展示したり、季節感を出すため、花を置いている。居間には、ゆっくり横になれる畳敷きのスペースも確保されている。利用者と一緒に飾り付けを行なう等馴染みやすい共用空間づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使っていた筆筒や家族の写真を飾っていたり、その人らしい居室づくりをしている。		